

JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y



2面

健康増進と
徳島県産農畜水産物の
消費拡大へ
(徳島県本部)

3面

グループ初
「輸出産地づくり
キックオフ会議」
(山形県本部)

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

News!



栃木県出身のスポーツ選手を農畜産物で応援

眞田選手、鏡選手に県産の米・肉・イチゴを贈呈

栃木県本部



左から菊地会長、鏡選手、福田富一県知事（18日）



菊地会長から県産米「とちぎの星」を受け取る眞田選手（12日）

初の四大大会制覇を果たした眞田選手は「地元の素

材」が贈られました。眞田選手は、菊地秀俊県本部運営委員会会長から両選手へ県産米「とちぎの星」、「とちぎ和牛」、県産イチゴ「とちあいか」が贈られました。

眞田選手、鏡選手に対する「栃木県知事特別表彰（スポーツ功労賞）授与式」が12月12日と18日に県庁で開かれ、それに併せて「栃木県産農畜産物の贈呈式」を行いました。

栃木県本部は、テニス全米オープン車いすの部男子ダブルスで優勝した栃木県出身の眞田卓選手、レスリング世界選手権大会女子76kg級で優勝した鏡優翔選手へ県産農畜産物を贈呈しました。

晴らしい農畜産物を食べて力をつけ、その姿を全国にアピールしたい」と話しました。パリ五輪出場が内定している鏡選手は「金メダルを目指して頑張りたい」と意気込みを語り、贈られた農畜産物については「お米が大好きなのでとてもうれしい。しっかりと食べて力をつけたい」と話しました。

菊地会長は「おいしい県産農畜産物をたくさん食べて、今後も体調に気を付けて挑戦を続けてほしい」とエールを送りました。

News!



健康増進と徳島県産農畜水産物の消費拡大へ

みんなが健康！県産食材料理レシピコンクール

徳島県本部



入賞者には賞状と記念品を贈呈



JA全農とくしま賞「野菜たっぷりスパイシーパイ」

コンクールは、誰もが作ってみたいと思う簡単で魅力的な野菜料理レシピを広く発信することで、徳島県の優れた野菜の魅力を知ってもらい、健康増進と県産農畜水産物の消費拡大を図ることを目的に2014年度から開催しています。

昨年度から「野菜たっぷり部門」に加え「フレイル※予防部門」が設けられました。

※フレイル：加齢により心身が老い衰えた状態

今年は県内在住の小学生以上の出品者から計949作品の応募があり、1次・書類審査で選出された各部門5作品について、2次・最終審査として出品者による作品説明と審査員による試食が行われ、厳正な審査の結果、最優秀賞をはじめ各賞の受賞作品が決定しました。

今後は受賞作品を掲載したレシピ集の作成などにより、県産農畜水産物の販売促進に活用する予定です。

徳島県本部は県や関係団体の協力のもと12月10日、徳島市内のホテルで「令和5年度みんなが健康！県産食材料理レシピコンクール」を開催しました。



グループ初「輸出産地づくりキックオフ会議」

県内産地をけん引、一丸となって海外販路の拡大へ

山形県本部

輸出事業に関わる県内外の組織が参加



会議では、県本部担当者が「需要が高い台湾では、検疫条件など厳しい規制があるため競合産地が少なく、高価格販売で生産者の手取り最大化が期待できる」と説明し、「高品質かつ安定出荷による長期的な売り場の構築が重要」と呼びかけました。

参加したＪＡからは「新規参入したい」という前向きな声が上がりました。「担い手不足で求められる品質・数量を供給できるか不安」という意見に対しては、県本部が（株）ＪＴＢや県と連携して取り組んでいる農業労働力支援事業を紹介しました。

国内は人口減少などで国産農畜産物の消費減退が懸念される中、海外では「日本の食」に注目が集まっています。県本部では、12月に台湾で「秋果実フェア」、1月に香港で「啓翁桜フェア」を実施しました。今後も県内各産地をけん引し、積極的に海外販路拡大に取り組めます。

山形県本部は12月12日、県内ＪＡや農林水産省、輸出対策部などが参加し、県産果実・花きの輸出拡大を目指して、課題や優良事例の共有、意見交換を行う「輸出産地づくりキックオフ会議」を全農グループで初めて開催しました。

12月に台湾で実施した秋果実フェア



激励米900^キに必勝を祈願

全国大会出場の7高校9チームに寄贈

福島県本部



贈呈した激励米の必勝祈願

今年で3回目を迎える激励米への祈願は、農業に関わりの深い水の神様「西根神社（福島市）」で行われ、太田豊副本部長ら職員が参列。各校の必勝を祈願しました。激励米「スポーツ応援米」は「粘り」のある県産「コシヒカリ」と「倒れにくく病気に強い」県オリジナル米「里山のつぶ」が50%ずつ入ったブレンド米で、米の特長にかけて選手の活躍を願ったものです。

激励米はラグビー、サツ



激励米を贈呈した帝京安積高等学校（バスケットボール男子代表）

カー、バレーボール、バスケットボール、駅伝の各競技の全国大会に出場する7校9チームへ、全国大会開会前にそれぞれ100^キ、200^キ贈呈。激励米の贈呈を通じて全国大会での活躍を応援しました。

福島県本部は、各種スポーツの県大会で優勝し全国大会に出場する県内7高校9チームに激励米「スポーツ応援米」計900^キを贈呈しました。

福島県本部は今後も若者の皆さんが最高のパフォーマンスを発揮できるよう、県産農畜産物を通じて応援を続けます。

News!



航空輸送を活用し沖縄の販路拡大へ

東北産のリンゴ・洋梨を直売所3カ所で販売

全農東北プロジェクト

「うまんちゅ市場」の全農東北フェアコーナー



航空輸送された東北産のリンゴ各種



本格販売に向けて2021年からの2年間、試験的な輸送と販売を行ってきました。今回は青森・岩手・秋田県産のリンゴ4品種、山形県産の洋梨「ラ・フランス」をANA Cargoとの連携により沖縄まで航空便で配送し、現地で販売しました。

1県1品目だった取り組みが、複数県複数品目の取り組みに拡大。さらに鮮度と物量を保った状態でコストを削減した配送・販売を実現することができました。福島県本部の「しいたけ栽培キット」や各種リンゴの詰め合わせ販売も実施。選ぶ楽しみを提供しながら東北の新鮮な農産物をPRすることができ、来場者からは「東北に行ってみた」などの声も上がりました。取り組みの継続により、さらなる販売拠点の拡大と東北産農産物のPRを行っていきます。

全農東北プロジェクトは11、12月、JAおきなわが運営する直売所「うまんちゅ市場」「はい菜!やんばる市場」「くがに市場」の3カ所で、(株)ANA Cargoの航空輸送を活用して東北産の青果物を販売しました。

News!



研究・業務発表会で9テーマを発表

相互理解と技術交流、業務改善、資質向上図る

営農・技術センター



発表会に参加する職員ら

今回は、子実とうもろこしなどの栽培実証をはじめ、園芸作物の高収量・省力栽培技術や環境問題に対応する代替技術の普及、EV車活用など農業の持続的生産拡大、品質向上に向けた九つのテーマで発表がありました。センターに来場できない関係部署にはWeb配信も行いました。

農業が直面する課題の解決に向けて、今後の取り組み

営農・技術センターは11月24日、神奈川県平塚市にある同センターで第72回研究・業務発表会を開催しました。発表会は、①各業務の相互理解と技術交流の促進②技術水準の向上と業務改善③職員の資質向上と教育研修——を目的に毎年開催しています。

みが期待される発表会となりました。

発表テーマ	発表者
子実とうもろこし栽培現地実証における除草剤の検討 ～研究室から現場へ～	農業研究室 戸澤 聖
EV車の営農・災害時利用検討	エネルギー研究室 鈴木 瑛士
タマネギの直播栽培技術の普及に向けた取り組み	農産物商品開発室 渡邊 風斗
残留農薬検査機能および体制の強化	残留農薬検査室 藤田 真弘
生分解性マルチの普及拡大に向けた取り組み	資材研究室 相澤 茜
尿素は硝酸加里の代替となるのか ～養液栽培用肥料の供給ひっ迫に対する技術検討～	肥料研究室 根津 瑞季
ゆめファーム全農プロジェクトと施設園芸研究室の使命	施設園芸研究室 島崎 優樹
全農における子実とうもろこしの取り組み	つくば営農企画室 内山 大輝
営農・技術センターが遵守すべき法的要求事項と実施状況	研究・人材育成企画課 坂野 勝 （株）全農ビジネスサポート 高木 竜二

令和5年度 全農の主な取り組み「第1回」

令和5年度の全農の主な取り組みを紹介しします(全5回)。

米穀部

統一フレコン、「全農号」で 物流改善による輸送合理化

全農では、米穀の輸送力を確保するため、全農統一フレキシブルコンテナの拡大、紙袋輸送のパレチゼーション化を進めています。全農パレチゼーションシステムは2024年産までに紙袋輸送の80%をパレチゼーション化する



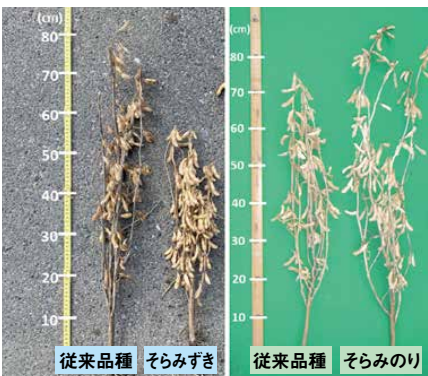
米専用貨物列車「全農号」

こと、全農統一フレキシブルコンテナは30年産までに全量切り替えることを目標としています。2024年問題対応として、モーターシフトの拡大に向けた検討を進めています。取り組みの一つとして23年11月から月2回で米専用貨物列車「全農号」の定期運行を開始。24年4月以降は月4回の運行を目指し、米穀の輸送力確保を図ります。さらに、23年10月末には、日清食品(株)と包括的な連携を開始し、原料米とカップライス製品などの共同輸送による輸送の効率化に取り組んでいます。

麦類農産部

多収の新品種を育成 麦・大豆の生産振興

食料安全保障・自給率向上・国産化の観点から、麦・大豆は生産と需要の拡大が求められています。そこで全農は生産振興と単収向上などに資する新品種の育成に取り組んでいます。



大豆新品種(左:そらみずき、右:そらみのり)

大豆は、従来品種より3割以上多収の新品種「そらみずき」(栽培適

地:関東・近畿)、「そらみのり」(栽培適地:東

海・九州)の育成・品種登録を農研機構、産地、

実需者と連携して行いました。今後は、東北や北

陸などでの栽培に適した多収性の大豆新品種の育

成に向けて関係先と連携して取り組みます。

麦は、農研機構や産地・大手製粉

会社と連携し、製粉原料として汎用性の高い国

産品種の開発に向け、現地実証試験と生育調

査、加工適性試験に継続して取り組みます。

園芸部

国産青果物の消費拡大へ 大手食品メーカーと連携

全農は昨今の生産コスト高騰を受け、関係機関と小売業界などの団体へ適正な価格形成に向けた理解や国産青果物の消費拡大の要請活動と、大手食品メーカーと連携した消費拡大の取り組みを実施しました。

キユーピーと取り組んだ「ご当地ペイザンヌサラダ」では、JAGグループの各県域がご当地食材を推薦、キユーピーの従業員がレシピを開発し、2023年7月に47都道府県のサラダを紹介しました。ミツカンとは旬の野菜のおいしさを伝え地産地消を応援する「旬ごち」※プロジェクトを発足、生産者の声とミツカンが開発したレシピを特設サイトや販促資材などで発信しました。



「ご当地ペイザンヌサラダ」特設サイト

こうした取り組みはこれまで各県域で取り組むことが多い状況でしたが、大手食品メーカーと連携することで、面的展開によるメディアへの露出も含め、広く周知することを目指しました。

※「旬ごち」はミツカンの登録商標です。



「ご当地ペイザンヌサラダ」特設サイト

JA全農チビリンピック2023

第5回全農杯全日本小学生カーリング選手権大会を開催

9チームが熱戦 軽井沢ジュニア（長野）が連覇を達成

神奈川県横浜市の横浜銀行アイスアリーナで12月24日、「JA全農チビリンピック2023 第5回全農杯全日本小学生カーリング選手権大会」が開催されました。今大会は参加チームが昨年からチーム増え、全国から9チーム41人の子どもたちが集結し、小学生カーリング日本一を目指して熱戦を繰り広げました。

【広報・調査部】

ゲストコーチがデモンストレーション

試合開始前には、大会にゲストコーチとして参加した、山口剛史選手（SC軽井沢クラブ）、小林未奈選手（フオルティウス）、小谷優奈選手（同）な



軽井沢ジュニアとチーム愛知ジュニアの決勝戦



「もぐもぐブース」で食材を手に笑顔を見せる山口選手と子どもたち



会場のクリスマスツリーには出場選手の夢や目標が飾られた

もぐもぐブースで栄養補給

今年も試合前後での栄養補給用に、出場チームの都道府県産のジュースをはじめ、赤飯おこわや温かいみそ汁、全農ブランド商品などを提供する「もぐもぐブース」を設置。「農協ミルク」や「ミルクティ」、神奈川県産の「足柄抹茶黒蜜きなこハバー」などをそろえ、子どもたちはおいしそうに栄養補給をしていました。また、食事を通してゲストや他のチームと交流する姿も見られました。

大会の様子をYouTubeで配信



決勝戦の様子を解説している武井壮さんとゲストコーチ

第5回全農杯全日本小学生カーリング選手権大会試合結果

優勝	準優勝	3位
軽井沢ジュニア（長野）	チーム愛知ジュニア（愛知）	帯広JCC（北海道）
4位	5位	6位
チーム青森キッズ（青森）	チーム盛岡ジュニア（岩手）	倉敷ジュニアカーリングクラブ（岡山）
7位	8位	9位
チーム東京（東京）	新潟ジュニア（新潟）	富山ジュニア（富山）

「氷温熟成米」など副賞を贈呈

優勝から3位までのチームには、副賞として長野県産米「コシヒカリ」の「氷温熟成米」、「信州アルプス牛」を、全チームには参加賞として「農協ごはん」、インスタントごはん、包装餅などを贈呈しました。全農はこれからも、子どもたちの健康づくりやスポーツ選手の育成をサポートしていきます。



YouTubeチャンネルでの配信 「日刊スポーツ」

<https://www.youtube.com/watch?v=ks5a7PbA5yo>

特性を生かして地域一体で

「かづの北限の桃」をブランド化

JAかづの管内である鹿角市と小坂町は秋田県の最北に位置し、中山間地の冷涼な気候を生かした果樹や夏秋野菜、水稲との複合農業が盛んな地域です。

JAと行政と生産者
連携してブランド確立

JA管内は果樹栽培で、古くからリンゴの産地でしたが、価格の低迷や気象災害などの被害によるリンゴ栽培の改善策として、生産者が桃の栽培を導入したのが始まりです。JA、市や県、生産者が一体となって栽培面積100畝構想を掲げ、

光センサーの導入や苗木の補助など産地づくりに取り組み「かづの北限の桃」のブランドを確立。2003年に商標登録をしました。

「北限」の由来は、最北の産地という意味ではなく、主力品種の「川中島白桃」が主要産地から2週間ほど遅い9月上旬から収穫され、市場への出荷が一番遅いことから名付けられました。

鹿角の特産「かづの北限の桃」



北限の桃ジュース

JAかづの
(秋田県)安定した品質に需要
人材確保が課題に

JAの桃は、光センサー選果機で糖度・色・大きさが選別され、基準を満たした桃だけが「かづの北限の桃」として出荷されます。

光センサー選果機を導入したことで、全国で桃が品薄になる時期に高品質な桃を安定して出荷できることから、消費者や市場関係者から高い評価を得ており、市場からは、今の倍以上の出荷量を求められています。

また、北限の桃を通年で楽しめるよう加工したジュースやグミ、ケーキなどさまざまな商品も販売されています。需要が伸びている一方で、収量の確保や人材不足が課題



光センサーで糖度・色・大きさを選別

題となっています。そこで、新たな人材の確保に向け、鹿角市や県と連携し、年間を通して果樹サポーター育成講習会を無料で実施し、人材の育成を行っています。

今後さらなる生産拡大に向け、県や市と連携し生産者の確保、人材育成に努めていきます。

概要

2023年3月31日現在

正組合員数	2724人
准組合員数	3150人
職員数	125人
販売品取扱高	25億6千万円
購買品取扱高	54億円
貯金残高	370億1千万円
長期共済保有高	1256億9千万円
主な農産物	米、桃、リンゴ、キュウリ、 トマト、シイタケ、花き

「愛情しいたけ」使ってパスタ

ファミマ×福島県本部で開発、福島・新潟で発売

愛情
しいたけ

福島県産
「愛情しいたけ」のロゴ

全農と㈱ファミリーマートは、福島県本部が供給する「愛情しいたけ」を使用した「福島県産愛情しいたけのバター醤油パスタ」を共同開発し、ファミリーマートの福島県・新潟県(一部店舗)の約300店舗で販売しています。産地訪問を行い、シタケの特長、生産のこだわりなど産地理解を深めながら商品開発を進めました。

【福島県本部・営業開発部】

「愛情しいたけ」は福島県本部が生産から販売までサポートするこだわりの菌床シタケで、福島の冷涼な気候と生産者の熟練された栽培技術により作られています。肉厚でジューシー、香りの豊かさとうまみが特長です。

商品は「愛情しいたけ」に、ベーコン、ホウレンソウなどをトッピングしてバター醤油で味付けしています。シタケの風味とバター醤油の香ばしさがマッチし、プリッとしたシタケの食感が楽しめます。



「福島県産愛情しいたけのバター醤油パスタ」
(530円・税込み)

築地本願寺でホットミルクを振る舞う

大みそか「除夜のつどい」に酪農応援の感謝を込めて

全農は協同乳業(株)と連携し、年末年始における牛乳の消費拡大を目的として12月31日、築地本願寺(東京都中央区)の年越しイベント「除夜のつどい」で農協牛乳を使用したホットミルクを振る舞いました。

【経営企画部・酪農部】

年末年始は学校給食の休止に加えて、一部量販店の休業が重なり、1年のうちで最も牛乳の消費量が少なくなります。そこで、築地本願寺の「除夜のつどい」で、農協牛乳を使用したホットミルクとコーンクリームスープ(提供:味の素(株))を参拝客に振る舞いました。

当日はホットミルクのブースに約2000人の参拝客が訪れ、冷えた体をホットミルクで温めました。ブースに訪れた方からは「久しぶりに飲んだホットミルクがおいしい」「普段牛乳を飲まない子がお代わりして驚いた」などの声が寄せられ大変好評でした。



大みそかの築地本願寺で参拝客に牛乳を配布し消費拡大を目指す



ホットミルクに加えて農協牛乳を使用したコーンクリームスープも提供

JA全農の産地直送通販サイト JAタウン ショップ紹介

笑顔「おいしい」のために

「はるたま」は静岡県浜松市、湖西市の海岸近くで栽培されている日本一早く出回る新タマネギです。

一般的なタマネギは、日持ちを良くするため収穫後に約1か月乾燥させますが、新タマネギは1~2日程度乾燥させてすぐ出荷するため新鮮でみずみずしさが保たれます。

肉質が柔らかく辛みが少ないので、水にさらさなくても食べることができます。生のままスライスしてかつお節、しょうゆ、ポン酢、マヨネーズをかけて食べるとうまみが際立ちます。

今の時期しか味わうことができない春を呼ぶ「はるたま」をぜひご賞味ください。



黄玉ねぎ「はるたま」約10kg……5000円(税込み)

※1月下旬ごろ~発送

▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは ☐ shop@ja-town1.com

